



備中高梁駅前 山田方谷像と「至誠惻怛」の石碑

嘉永三年（一八五〇）に改革に着手して、七年後の安政四年（一八五七）頃には、領民の生活の安定と藩内の治安の確保、産業振興、教育振興が図られ、他藩からの旅行者にもそれが感じられたといえます。

三島中洲は「方谷先生年譜」安政四年の条で、「十両の借金を返済した上、後には十両両を蓄財」と、藩政改革が見事な成果を取めたことを書いています。

方谷の改革が成功した理由として、まず、改革の目的を、藩財政の再建という小さなものではなく、「下方潤沢」（領民みんなを豊かにする）という大きなものに置いていることが挙げられます。そしてその根底には「至誠惻怛」（誠意を尽くし人を思いやる心）、「士民撫育」（藩士・領民を物心ともに幸せにする）という基本理念がありま

した。

これらのことは、安政二年（一八五五）の上申書「士民撫育の三急務策」を見てもうかがえます。そこでは①改革着手のとき断行した藩士からの借上げ米を返す、②農民に対しては年貢を軽減し、難渋村には救済策を講じる、③町人には資金を融通し、交易を盛んにする、とうたっています。

減俸したのではなく藩が苦しいときに借り上げたのだから返すというのは、藩士の志気を高めることにつながります。また、税を軽減したり、資金を融通することは、農民や町民にとって将来に希望がもてるという意味で、まさに未来志向型の施策であり、彼の改革の目的が、士民の生活を安定させることにあったことを如実に物語っています。このような施策が藩士や領民の信頼につながり、人々の心を前向きに動かし、改革をさらに加速させていくことになりました。方谷は領民全体が豊かになれば、自然と上層も豊かになると考え、「下方潤沢」

に主眼を置いたのです。

次に、改革成功の重要なポイントをいくつか挙げると、まず、撫育方、産物方の設置など、藩を機動的な会社組織に再編したことです。これにより、大坂の蔵屋敷を廃止した後の年貢米の運用（換金）を商人任せにせず、相場を注視して藩が独自に行うことによって収入を大幅に増やしています。また、「無用を節し、有用を豊かにする」という姿勢を貫いていることです。倅約を奨励する一方で、使うべきところへは積極的に投資しています。例えば帆船「快風丸」（普段は藩の物資の運送、非常時には軍船として使用）の購入など、生きたお金の使い方をしています。

さらに、藩主板倉勝静との絶妙なコンビ（藩主からの絶大な権限の付与と信頼関係）は特筆すべきでしょう。三島中洲や進鴻溪など優れた部下の存在、経済界の協力など、方谷改革を支えた人達の存在、そして何よりも教育（学問）を重視して、民力のすそ野を広げ、積極的な人材登用を行っていることは大きいと思います。

藩政改革の成功による藩政の安定もあって、藩主勝静は幕閣に登用され、寺社奉行から老中になり、方谷も幕政に関与することになります。

（文・渡辺道夫）



快風丸（『明治維新当時諸藩艦船図』東京大学教養学部所蔵）

山田方谷に学ぶ

3

二、方谷の藩政改革—その2



市民一丸となって盛り上げていく
「高梁市森の芸術祭実行委員会」が立ち上がりました！

6月1日(月)に、商工団体、観光関連事業者、地域コミュニティなどが一堂に会し、「高梁市森の芸術祭実行委員会」の設立総会が開催されました。総会では、実行委員長に石田芳生市長が選任され、会の規約や役員の承認、2027年の本番に向けた「令和8年度事業計画」について話し合いが行われました。次年度に向けて本格的に動き出し、市全体で機運を高めていく強固な足がかりができました。

プレイベント「さわれるアート展」を開催しました！

6月14日(日)には、ポルカ天満屋ハッピータウンを会場に、体験型アートイベントを開催しました。会場には、40kgを超える大型彫刻に直接触れられるブースや、高梁川の石を磨いてアートを作るワークショップ、職人による迫力満点の「石を真っ二つショー」などが催されました。

イベントには、約150人が訪れ、子どもから大人まで幅広い年代が来場し、終日にぎわいを見せました。

また、当日は岡山大学をはじめ、地元の高梁城南高校、高梁高校、高梁中学校の学生・生徒の皆さんが「学生アテンド」として大活躍！来場者への作品解説や体験サポートを通じ、世代を超えた温かいアートの交流が生まれました。

「アートが身近になった」という声も多く聞かれ、2027年に向けた大きな一歩となるイベントとなりました。



担当者からのメッセージ

「森の芸術祭」は、単なるアートイベントではありません。市の魅力を再発見し、未来へつなぐ大きなチャンスです。市民の皆さんとともに、素晴らしい芸術祭を作り上げていきたいと考えています。これからの展開にぜひご注目ください！

森の芸術祭 GO FOR 2027

～アートを契機とした
地域の魅力発信へ向けて
キックオフ～

観光課 ☎21-0217

